

保護者の協力を得て行う道徳の時間の学習に関する研究

和気町立和気小学校 教諭
安 東 直 子**研究の概要**

本研究では、保護者の協力を得て行う道徳の時間の学習において、児童の道徳的実践意欲や道徳的態度（以下「道徳的実践意欲・態度」という。）を育成するための工夫について検討した。その結果、事前と本時の学習に加え、事後の学習にも保護者の協力を得て、児童へ賞賛や励ましなどをすることが、児童の道徳的実践意欲・態度を育成する上で有効であることが分かった。

キーワード 道徳の時間、保護者の協力、事前の学習、事後の学習、道徳的実践意欲・態度

I はじめに

平成20年8月に告示された小学校学習指導要領解説道徳編（以下「解説」という。）では、児童の基本的な生活習慣の確立や規範意識の醸成などを阻む主な要因として、家庭や地域社会の教育機能の低下を指摘している。そして、児童の道徳性の育成には、学校と家庭や地域との連携が望まれ、そのための主な方策として、道徳の時間において保護者や地域の人々の協力を得ることが示されている。中でも、保護者は児童の養育に直接かかわる立場であることから、道徳の時間に保護者の協力を得ることにより、効果的に道徳的実践力を育成できると考える。

道徳の時間に保護者の協力を得た先行実践には、主題として家族愛や基本的な生活習慣などを取り上げているものが多い。また、協力を得る方法では、保護者が書いた手紙を児童に渡したり、終末の段階で説話をしたりするなどの取り組みが見られる。それらの取り組みによって、児童はねらいとする道徳的価値についての考えを深め、道徳的心情の育成につながったという成果が上げられている。しかし、先行実践の多くは道徳的心情を育成することをねらっており、道徳的行為につながる道徳的実践意欲・態度の育成を直接的にねらっている実践はほとんど見られない。

道徳の時間の目標である道徳的実践力を育成するためには、道徳的心情や道徳的判断力を育成する指導はもとより、道徳的実践意欲・態度を育成する指導の充実を図ることが大切である。道徳的実践意欲・態度を育成するには、道徳的価値を実現しようとする道徳的行為への身構えを持つことができる指導が必要である。その際、学校での指導に加え、家庭で児童の養育に直接かかわる保護者の協力を得ることにより、効果的に育成することができると考える。

そこで、本研究では、児童の道徳的実践意欲・態度を育成するために、道徳の時間の一連の学習過程において、事前や本時の学習に加えて、事後の学習にも保護者の協力を得た指導の工夫について検討したいと考え、本主題を設定した。

II 研究の目的

児童の道徳的実践意欲・態度を育成するために、保護者の協力を得た道徳の時間の指導の工夫について検討する。

III 研究の方法

児童の道徳的実践意欲・態度を育成するために、本研究では、まず、解説や先行実践などの文献から、保護者の協力を得ることが有効だと考えられる内容項目及び道徳の時間に保護者の協力を効果的に得るための手だてを明らかにする。そして、明らかになった効果的に保護者の協力を得る手

だてを学習過程に組み入れた授業実践を行い、その有効性を検討する。

IV 研究の内容

1 道徳の時間への保護者の協力について

解説には、道徳の時間に保護者の協力を得る手だてとして、授業に児童と同じ立場での参加協力を得たり、講師やメッセージを伝える役目としての協力を得たりすることなどが示されている。また、本時以外の学習では、授業前にアンケートや児童への手紙などを、事後に児童への言葉がけを依頼することなどが示されている。

道徳の時間に保護者の協力を得るには、児童の発達段階に応じるとともに、ねらいとする道徳的価値の理解が深められるようにすることが必要になる。

低学年の児童は、教師や保護者の影響を受けやすく、道徳性の基本である自分でしなければならないことが次第にできるようになる発達段階にある。そのため、保護者は、本時の学習では道徳的価値に対する児童の考えを理解し、本時以外の学習では道徳的行為を実践しようとする児童の意欲を賞賛したり励ましたりするかかわりをするのが大切である。よって、くじけず努力する心を育てる勤勉・努力や基本的な生活習慣などの道徳的価値の学習に協力を得ることが効果的であると考ええる。

中学年の児童は、自己中心的な行動をしてしまいやすい反面、自主性が高まってくる発達段階にある。そのため、保護者は、本時の学習では児童がどのように道徳性を発揮しようとしているかを理解し、本時以外の学習では生活において自主性が高まるように支持的に励ますかかわりをするのが大切である。よって、自分のよい所を更に伸ばそうとする心を育てる個性伸長や自分が家庭における重要な一員であることの自覚を深める家族愛などの道徳的価値の学習に協力を得ることが効果的であると考ええる。

高学年の児童は、自分の価値判断に固執しがちではあるが自律的な態度が発達する段階にある。そのため、保護者は、本時の学習では児童の考えや自主性を尊重しながら道徳的価値について児童と話し合い、本時以外の学習では児童が自らの考えを見詰めることができるように児童の言動に対して肯定的な評価や助言をするかかわりをするのが大切である。よって、働くことを尊ぶ心を育てる勤労や生命に対する畏敬の念を育てる生命尊重などの道徳的価値の学習に協力を得ることが効果的であると考ええる。

保護者の協力を得ることにより、効果的に道徳的実践力を育成することができると考えられる主な道徳の内容項目を表1に示す。

表1 保護者の協力を得ることにより効果的に道徳的実践力を育成することができると考えられる主な道徳の内容項目

道徳の内容項目（解説に示しているもの）	
低学年	1-(1) 基本的な生活習慣 健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。
	1-(2) 勤勉・努力 自分がやらなければならない勉強や仕事は、しっかりと行う。
	3-(1) 生命尊重 生きることを喜び、生命を大切にすることをもち。
	4-(3) 家族愛 父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを知る。
中学年	1-(5) 個性伸長 自分の特徴に気付き、よい所を伸ばす。
	3-(1) 生命尊重 生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にする。
	4-(3) 家族愛 父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合っって楽しい家庭をつくる。
高学年	3-(1) 生命尊重 生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。
	4-(4) 勤労 働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立つことをする。
	4-(5) 家族愛 父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをする。

2 道徳的実践意欲・態度を育成するための保護者の協力を得る手だてについて

(1) 道徳的実践意欲・態度の育成と保護者の協力

一般的に道徳の時間の学習では、道徳的心情や道徳的判断力を基盤として、道徳的実践意欲・

態度を含めた道徳的実践力の向上を図ることが重要である（図1）。中でも、道徳的実践意欲・態度は、道徳的行為を実現しようとする意欲であり、具体的な道徳的行為への身構えでもある。したがって、道徳的実践意欲・態度を育成するためには、日常生活における道徳的行為や道徳的習慣の指導との関連付けが有効であると考え。また、学校での指導に加え、保護者の協力を得て、家庭で保護者が児童に直接かかわることにより、より効果的に育成することができると考える。

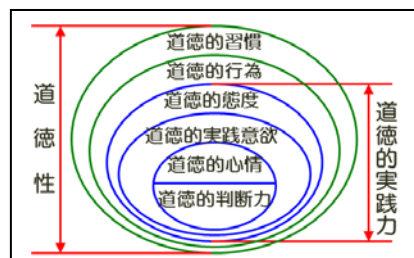


図1 道徳性と道徳的実践力の関係

(2) 保護者の協力を得る道徳の時間の学習における支援の手だて

児童の道徳的実践意欲・態度の育成につながる保護者の協力を得るためには、まず、教師が、ねらいとする道徳的価値や児童の実態を踏まえ、どのように育成するかについて保護者に知らせ、教師と保護者が共通理解を図ることが必要である。そして、保護者の理解を得た上で、保護者が道徳の時間にメッセージを伝えたり、家庭においても適切にかかわったりできる取り組みを設定することが必要である。このように、1単位時間の道徳の時間への協力にとどまらず、事前、事後の学習においても協力を得ることにより、より効果的な指導を展開できると考える。

そこで、本研究では、保護者の協力を得る道徳の時間の学習を事前、本時、事後の一連の学習過程でとらえることにした。そして、保護者の協力を効果的に得るために、以下に示す事前、本時の学習の段階、及び事後の学習の段階における手だてを検討した（図2）。

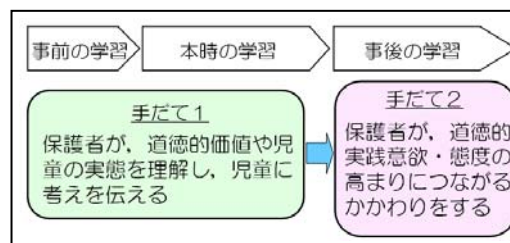


図2 保護者の協力を効果的に得るための手だて

ア 事前、本時の学習における手だて（手だて1）

保護者がねらいとする道徳的価値を知り、その価値の大切さについて考えたり、道徳的価値に対する児童の考え方を知ったりできる活動を取り入れる。その上で、児童の道徳的実践意欲・態度が高まるような保護者の考えをメッセージとして伝える活動を取り入れる。

イ 事後の学習における手だて（手だて2）

学校での事後の学習と同じ方向性で、各家庭においても保護者が児童への道徳的実践意欲・態度の高まりにつながる直接的なかかわりができる活動を取り入れる。その際、道徳的行為ができるかどうかには焦点を当てるのではなく、道徳的行為の実践に向けて児童の意欲がより高まるようなかかわりができるように留意する必要がある。

3 道徳的実践意欲・態度を育成するために考えられる保護者の具体的な協力について

表1に示した内容項目のうち、児童の道徳的実践意欲・態度の育成を促進するために、事前、本時での学習及び、事後での学習において考えられる保護者の協力を効果的に得るための具体的な手だてを表2に示す。

表2 主な内容項目の学習における保護者の協力を効果的に得るための具体的な手だて

内容項目		事前、本時の学習における手だて（手だて1）	事後の学習における手だて（手だて2）
低学年	1-(2) 勤勉・努力	事前 ・ 児童の日ごろの頑張りを賞賛する気持ちを手紙に書く。 本時 ・ 全体の話し合いに参加し、児童と同じ立場で考える。 ・ 児童に手紙を渡し、手紙を読む様子を参観する。	・ 児童のワークシートの記入などを基に、児童の頑張りを賞賛したり励ましたりする。
中学年	1-(5) 個性伸長	事前 ・ 児童の長所を伸ばすことに関するアンケートに記入する。 ・ 児童が主題について話し合う様子を参観する。 本時 ・ アンケートに記入した長所を伸ばしてほしいという保護者の思いや願いを、教師から児童に伝える。	・ 児童のワークシートの記入などを基に、長所を伸ばそうとする意欲を高める言葉がけをする。
高学年	4-(4) 勤労	事前 ・ 働くことについて、児童に伝えたい思いや願いをアンケートに記入する。 本時 ・ 小グループで児童とともに話し合う。 ・ アンケートに記入した働くことについての保護者の思いや願いを、教師から児童に伝える。	・ 児童とともに奉仕活動などをする中で、児童に助言をしたり賞賛したりする。

4 実践

本校低学年の道徳教育の重点目標は、1－(2) 勤勉・努力「自分がやらなければならない勉強や仕事は、しっかりと行う」である。この重点目標にかかわって、6月には道徳的心情を養うことをねらった道徳の授業を行った。また、9月からは宿題や係、当番などのやらなければならないことに重点を置いて取り組んでいる。よって、この時期に勤勉・努力に関する道徳的実践意欲・態度を育成することをねらった道徳の授業を行うことの意義は大きいと考える。また、やらなければならない勉強や仕事は、家庭においても宿題や手伝いなどで取り組めることから、保護者の協力を得やすく、道徳的実践意欲・態度の高まりが期待できる。そこで、本実践では、保護者の協力を得る二つの手だてを取り入れて学習過程（図3）を構想し、授業実践を行うことにした。

(1) 実践方法

ア 対象児童：和気町立和気小学校 第2学年 22人

イ 実施日：平成22年10月28日

ウ 主題名：わたしのしごと 内容項目：1－(2) 勤勉・努力

エ ねらい：自分がやらなければならないことは、しっかりと行おうとする態度を養う。

オ 資料名：「なおみさんは花だんがかり」（文溪堂）

カ 資料の概要

花だん係のなおみは、草取りの仕事が嫌いである。数日間草取りをしなかったため伸びていた雑草と同じ係のあつ子は進んで取り始めたが、なおみは花だんのそばで小石をいじっていた。しばらくして、一生懸命草取りをしているあつ子を見たなおみは草取りを始め、雑草がなくなるまで続けた。きれいになった花だんを見たなおみはとてもいい気持ちになった。

(2) 保護者の協力を得るための工夫

ア 道徳的価値や児童の実態を理解し、児童に考えを伝える活動（手だて1）

保護者は、事前にねらいとする道徳的価値の大切さやその価値に対する児童の様子について理解を深めた上で、本時で児童が読む手紙を書く。また、本時の学習では教師の発問に対して児童と同じ立場でねらいとする道徳的価値について考え、話し合いに参加する。なお、保護者が児童に手紙を書く前に、本時でねらいとする道徳的価値や手紙を書く際の留意点をまとめた文書を配付して保護者と共通理解を図るようにする。

	児童の活動	保護者の協力
学習 事前の	ねらいとする道徳的価値に関心を持たせるために、児童が係や当番などにしっかりと取り組んでいる姿を帰りの会などで紹介する。	● 児童の日ごろの頑張りを賞賛したり認めたりする保護者の気持ちを手紙に書く。(手だて1)
本時の学習 (略案)	1 自分が日ごろ行っている係や当番などの仕事を想起する。 2 資料を読んで話し合う（○は主な発問）。 ○ 小石をいじっているなおみさんはどんなことを考えていたでしょう。 ○ きれいになった花だんを見て、なおみさんはどんな気持ちになったでしょう。 3 今までの自分を振り返る。 ○ やりたくないなという気持ちがあったけれど、頑張ってやってよかったなと思ったことはありますか。 ○ おうちの人がみなさんに書いたお手紙を読みましょう。 4 学習の感想を書く。	● 展開前段の話し合いに参加し、児童と同じ立場でねらいとする道徳的価値について考える。(手だて1)
事後の学習	「こころのノート」の「がんばっているね!」を活用し、以下の活動に取り組む。 ・ 授業実施日の翌日の朝の会で、児童がこれから頑張りたいと思う勉強や当番、手伝いなどを考える。 ・ 児童は、学校での仕事や家庭での手伝いに5日間、取り組む。 ・ 毎日の帰りの会で振り返り、自己評価を「こころのノート」に記入する。	● 児童が学校で記入した「こころのノート」を基に、児童と話し合い、児童が頑張ろうとした気持ちを賞賛したり励ましたりする。(手だて2)

図3 事前、本時、事後の学習の過程

イ 道徳的実践意欲・態度の高まりにつながるかかわりをする活動（手だて2）

事後の学習では、「こころのノート（小学校1・2年）」の「がんばっているね！」を活用し、児童は自分が頑張りたいと思う勉強や当番、手伝いなどに5日間取り組み、毎日の帰りの会で振り返る。保護者は、「こころのノート」の記入を基に毎日児童と話し合い、児童が頑張ろうとした意欲を賞賛したり励ましたりする。保護者のかかわり方は、参観後の懇談で教師が説明して保護者と共通理解を図るようにする。

(3) 検証方法

- ア 事前、本時の学習における保護者の道徳的価値や児童の実態に対する理解の深まりについて、授業後に実施した保護者アンケートから検討する。また、児童の道徳的実践意欲・態度の高まりについて、児童が授業のまとめで記述したワークシートから検討する。
- イ 事後の学習での保護者のかかわりにおける児童の道徳的実践意欲・態度の高まりについて、事後の学習後に実施した保護者アンケート及び「こころのノート」の記述から検討する。

(4) 結果と考察

ア 道徳的価値や児童の実態を理解し、児童に考えを伝える活動（手だて1）について

授業後に実施した保護者アンケートの設問「児童に手紙を書いたときに、思ったり考えたりしたこと」の回答（一部）を表3に示す。下線部から、保護者はねらいとする道徳的価値に関する日ごろの児童の様子を想起し、その上で児童へのメッセージを書いていることが分かる。22人中13人の保護者が同様の記述をしている。

表3 手紙に関する保護者アンケートの記述（一部）

- 子どもが何を頑張っているのかについていつもは考えないけれど考えました。
- いろいろと頑張っていることが浮かんできて、大きくなったなと感じました。
- じっくり考えてみると、子どもが頑張っていること、努力していることはいっぱいあるんだということに気が付きました。

授業後に実施した保護者アンケートの設問「児童と同じ立場で考えたり、話し合ったりしたとき、思ったり考えたりしたこと」の回答（一部）を表4に示す。下線部の記述からは、保護者が児童の発言に関心を持ち、児童の考えを肯定的に受け止めていることが分かる。なお、22人中12人の保護者が同様の記述をしている。

表4 本時に関する保護者アンケートの記述（一部）

- 子どもがどう考えたり思ったりしているかがよく分かりました。
- 子どももしっかりと考えをもっているなと感じました。
- 大人が思うことも子どもたちが思うこともたいてい変わらないなと思いました。

本時の終末に、「心に残ったことやこれから頑張りたいことを書きましょう」という発問の後、児童がワークシートに記述した感想（一部）を表5に示す。(ア)(イ)(ウ)の下線部の記述から、児童は自分がこれまで取り組んできたことを保護者から認められていると実感していることが分かる。22人中16人の児童が同様の記述をしている。また、(エ)(オ)(カ)の下線部の記述から、児童は本時の学習により、道徳的行為を実践しようとする意欲が高まっていることが分かる。なお、22人中11人の児童が同様の記述をしている。

表5 児童の感想の記述（一部）

- (ア) お母さんは、いつもわたしがげんかんそうじをしているところは見てないけど、わたしの気もちをわかっているとわかりました。毎朝げんかんそうじをしていてよかったなと思いました。
- (イ) お手紙を読んで、お母さんは見ててくれたんだなと思いました。
- (ウ) お手紙をもらって、「ねばり強く」と書いてあるところがうれしかったです。
- (エ) ぼくは、これからもがんばれると思いました。
- (オ) これからも、せんとくものやお手つだいをやりたいです。
- (カ) おふろやトイレそうじをつづけたいです。

このことから、保護者が、事前に道徳的価値や児童の実態を理解した上で手紙を書き、その後児童に考えを伝える活動を取り入れたことにより、道徳的行為を実践しようとする児童の意欲を高めることができたと考える。しかし、児童のワークシートの記述を見ると、展開前段における学習と保護者からの手紙を関連付けて考えることができにくかった児童が4人いたことが分かった。そのため、展開の前段と後段の学習を児童が関連付けて考えられるようにするために更なる工夫が必要である。

イ 道徳的実践意欲・態度の高まりにつながるかかわりをする活動（手だて2）について

事後の学習後に実施した保護者アンケートの設問「『こころのノート』の取り組みについての感想」の回答（一部）を表6に示す。(ア)(イ)(ウ)の記述から、保護者が児童の頑張ろうという意

欲を受け止め、その上で賞賛していることが分かる。なお、22人中14人の保護者が同様の記述をしている。中でも、(イ)(ウ)の下線部の記述から、児童に「どんなことを頑張ったのか」と尋ねることにより、頑張ろうとする児童の意欲を言語化、意識化させている保護者がいることも分かる。また、2人の保護者ではあるが、(エ)(オ)の記述のように、保護者は児童ができなかったことを指摘するのではなく、頑張ろうとした意欲を受け止めたり、励ましたりしていたことが分かる。

事後の学習後にまとめとして児童が取り組んだ「こころのノート」の「しっかりできたときの気持ちを記ろくしておこう」への記述（一部）を表7に示す。(ア)(イ)の下線部の記述から、児童は自分なりに頑張ったことを保護者から賞賛され、認められたことを実感していることが分かる。なお、22人中10人が同様の記述をしている。また、(ウ)(エ)の下線部の記述から、これからも続けて頑張りたいという児童の身構えが高まっていることが分かる。なお、22人中11人が同様の記述をしており、これらの児童の保護者のほとんどが、児童の頑張ろうという意欲を受け止めた上で賞賛していることから、ここでの児童の身構えの高まりは、保護者の賞賛が起因していると考えられる。さらに、5人の記述ではあるが、(オ)(カ)の下線部の記述のように、児童が取り組めなかったときに、頑張ろうとした意欲を受け止めた保護者の励ましによって、これからも頑張りたいという児童の意欲が高まっていることが分かる。

これらのことから、児童は頑張ろうとした意欲や身構えを保護者から認められ、賞賛され、励まされることにより、道徳的行為を学校や家庭での生活で実践しようとする児童の意欲や身構えをより高めることができたと考える。中でも、学校と家庭とが児童へのかかわり方の共通理解を図った上で、学校での「こころのノート」の取り組みを家庭において児童との話し合いに生かすことにより、保護者が児童へ適切なかかわりをしやすくなったと考える。また、保護者が、事前の学習で手紙を書いて道徳的価値や児童の実態について考え、本時の学習で児童と同じ立場で話し合いに参加したことは、事後の学習で多くの保護者が児童の道徳的実践意欲・態度の高まりにつながるかかわりができた要因の一つになったと考える。

V おわりに

保護者の協力を効果的に得るための本研究における二つの手だては、児童の道徳的実践意欲・態度を養う上でおおむね効果があったと考える。保護者の協力を得ることにより、学校のみにおける取り組み以上に、児童の意欲や身構えを高めることができたと考える。

実践後、ある保護者から、「やる気を認めて励ましたら、子どもはやる気を高めて自分から頑張ろうとすることが分かりました」という話を聞いた。本実践は、保護者にとって、これまでの子育てや子どもへのかかわり方について振り返り、見直す機会にもなったようである。

今後は、中・高学年における保護者の協力を得て行う道徳の時間の指導にも取り組んでいきたい。

○参考文献

- ・ 文部科学省（2008）『小学校学習指導要領解説道徳編』東洋館出版社
- ・ 文部科学省（2009）『こころのノート（小学校1・2年）』文溪堂
- ・ 赤堀博行（2010）『道徳教育で大切なこと』東洋館出版社

表6 事後の学習に関する保護者アンケートの記述（一部）

(ア) 子どもなりに頑張っていることがあり、頑張ろうとしていることをほめるととてもうれしそうでやる気が出る様子でした。
(イ) 「 <u>どんなことをしたの？</u> 」と話を聞いて、「 <u>よくがんばったね。すごいね!</u> 」と声をかけると、とてもうれしそうでした。
(ウ) 青色にぬっている時には「 <u>どんなことをがんばったの？</u> 」と聞きました。
(エ) できなかったことも「 <u>頑張っていたね</u> 」と励ますことができました。
(オ) 黄色の時は「 <u>今日はどうして黄色だと思ったの？</u> 」と聞くと、できなかった理由を話してくれました。

表7 児童の「こころのノート」への記述（一部）

(ア) <u>お母さんに「じょうずだね」と言われてうれしかったです。</u>
(イ) <u>家のお手伝いができていない日もあったから、休みの日もがんばってそうじをしようと思いました。お母さんに見せたとき「すごいね」と言ってもらってうれしかったです。</u>
(ウ) <u>当ばんのしごとと家の手つだいも、もつともつとがんばりたいです。</u>
(エ) <u>これからもつづけようと思います。</u>
(オ) <u>できなかった日はざんねんでした。でも、いっぱいほめてもらったので、こんどからもがんばりたいです。</u>
(カ) <u>できなかった日はざんねんだったけど、明日はがんばろうという気持ちです。</u>